

Mランドニュース Vol. 84

丹波ささ山校 平成26年3月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

《今月の言葉》

「やらされる勉強からやる勉強
に変えた時、苦しみが喜びに
変わる」

タニサケ 会長 松岡 浩著

「夢工場物語」

“やる仕事”より抜粋

手話研修

今年より、Mランドでは手話をインストラクターに広めようと、手話推進チームが発足し私が一番に手をあげました。

今から約四年前に、私は教習指導員として初めてとなる、ろう者(聴覚障害者)のゲストとの出会いがありました。当時、私は手話というものを知りませんでしたので、身振り手振り、若しくは筆談、時にはそのゲストに手話を教えていただきながら、教習を進めていきました。そんな中でも、お互いの気持ちに通じ合った時の喜びを今でも覚えています。

また、同時に懸命に教習に取り組んでいる、ゲストのお役に立ちたいと思いつつも、応えきれない自分のもどかしさを痛感していました。そして今回、手話研修のおはなしをいただいたときに、「それなら私が！」という気持ちで、挑戦させていただくこととなりました。

転することのできる車両の種類、聴覚障害者も免許を取得し、多くの車両が運転できるようになりました。しかし、その免許取得の場となる教習所では、未だにろう者への教習環境の整備、教習指導員のスキルの向上も、ほとんどなされていないのが現状だと感じています。



手話を丁寧に説明する前川インストラクター

私たちは、それぞれの大切な命を預かり、教習を行なっています。その命を預かるのにコミュニケーション手段となる会話「手話」を身につけることは、赤ん坊が言葉を覚えるのと同様に至極当然のことです。また同様に、ろう者が免許の取得をされるのも当然のことです。



私達インストラクターも朝礼時に少しずつ覚えています

成長の人

今月の成長の人は、神奈川県から一人でお越しいただいた、松花菜摘様です。

入所されて翌日から、ほぼ毎日ボランティア活動に参加されました。(松花様は大学で戦国時代に活躍した村上水軍を研究されており、)感性豊かな女性で卒業を前

に、心に残ったことを投稿していただきましたので、皆様にご紹介いたします。

私はトイレ掃除と校内清掃、洗車のボランティアに参加させていただきました。

元々、面倒臭がりの私は、家であまり掃除をしておらず、ほうきや掃除機を持つのは高校を卒業して以来、久しぶりのことでした。

そんな私なので初めてトイレ掃除に参加したときは、「何だ、そんなに汚れてないじゃん」と思いました。しかし、一日のゴミの量は少なくてもそれを溜めていくと多くなること、溜めてから掃除をするのでは遅いという話をしていただき、今までの自分をふり返ってゾッとしました。

また、きれいそうに見えても別の角度から見ると、汚れが見えてくると教えていただき、毎朝の掃除の中で様々な角度から見ることを、心掛けて掃除をしました。

そうすることによって、まだ汚れが残っていないか、拭き残しはないか等と、様々なことが気になるようになりました。このように様々な角度から物事を見たり、確認したりすることは日常生活においても、そして運転をする時にも通じることだと思えます。

毎朝のボランティアの中で少しずつ新しい発見をし、学ぶことができ、自分自身を見つめ直す機会にもなりました。これからここを卒業し、地元に戻ってもここで学んだことを活かして、毎日少しずつ掃除をする習慣を続けていくとともに、普段から掃除をする人の身になって、なるべく汚さないように心掛けていきたいと思えます。ありがとうございます。



ホイールもピッカピッカ!

無事、卒業検定に合格され、旅立たれる松花様と力強い握手をし、お見送りしました。「松花さん！頑張ってらっしゃい！」 井本 徹

八上小学校掃除の会

二十七日、篠山市立八上小学校、六年生二十一名と篠山掃除に学ぶ会で、六年間の感謝の気持ちを込めて校内二か所のトイレを磨く「掃除に学ぶ会」を開催させていただきました。

以前にもニュースで紹介しているように、掃除にも熱心に取り組んでおられる小学校ですが、私たちと掃除をするのは初めてで、校長先生と担任の先生の「良くしたい」という強い思いで実施することができました。



どんなことをするんだろう？(開会式)

開会式では掃除をする上で、の三つの注意をなしました。

- 一、しゃべらない
(他人と比較しない)

- 二、道具を大切に使う
(思いやり)
- 三、便器をしつかりつかむ
(集中する)

いよいよ三つの班に分かれて掃除の開始です。いつもしているやり方と、ずいぶん違うのですが、リーダーの説明に最初は戸惑いながらも、ひとたび気持ちのスイッチが入るとどんどん便器に近づいていきます。幼少の年代に受ける感性は素直で、心にきざまれるものです。人が嫌がるトイレ掃除に、身と心を使い器に近づけ磨いていると、いろんなことに気づいていきま



みんな熱心に便器を磨きます

す。使った道具も次の人のためにきれいに洗って、元に戻すことも大切なことです。終了後、各班での感想発表。どんな感想でもOK、拍手で受け入れます。閉会式では各班長とリーダーの全体発表で「気づき」を皆で共有しました。



終了後の感想発表

近年、全国で掃除から学ぶ大切さが広がり、多くの小中学校で「トイレ掃除に学ぶ会」が行なわれるようになりました。四年ほど前から、私も県内の中学校の掃除の会に参加させていたたくようになり、多くの感動を目の当たりにしました。この「心磨き」の活動が、篠山の小学校でできたことを本当に嬉しく思い、この輪が更に広がることを願っております。

次は参加してくれた生徒さんの感想文です。

- ・だんだんトイレがきれいになっていく度に心の中が気持ちよくなっていききました。
- ・しゃがんで見たら、いつもは気がつかない汚れまで見えてすごかったです。
- ・トイレを汚す人ときれいにする人では、きれいにする人の方に人はよってくることわかりました。

ある日の昼食

ゲスト 清野 将様

昼食を一緒にどうぞですかと、石橋インストラクターに誘われました。初めは「説教をする！」と言われ、その時はすごく焦りました。しかし、ご飯を食べながら説教どころか、教習中ではできないような楽しいはなしができて、「ただ一緒においしく食べたかっただけ」といわれた時はとてもうれしかったです。

食っている時、インストラクターのすべらない話をしてくれました。南勝インストラクターと奥さんの出会いの話でした。その話は奥さんが以前、空港で働いているとき、飛行機の客室清掃の仕事で窓を拭いているときに、同じく屋外で働いていた南勝インストラクターの目には、自分に一生懸命手を振っているように見えたそうです。「ここは行かんと男やない」とその後、声をかけられたそうです。奥さんは窓を拭いていただけなのに。聞いていた他の人も大爆笑。これがきっかけとなり、結婚されました。

『掃除に学ぶ会』のご案内

私たちと一緒にトイレを掃除しましょう。

3/9(日) 八上小学校 西トイレ
(AM7:00~8:00)

3/23(日) 篠山中学校 屋外トイレ
(AM7:00~8:00)

※参加していただける方は井本までご連絡ください。



インストラクターの話に大盛り上がり!

「こういう出会いも、あるんだなあ」ということも知りました。篠山のインストラクターのみなさんはすごくおもしろくて、本当に楽しい時間となりました。ありがとうございました。

編集後記

数々の感動がテレビの画面から伝わってきた、ソチ冬季五輪が閉幕しました。今回のオリンピックは、鍛え抜かれた参加選手の単なる競技だけでは、選手の思いをひしひしと感じる大会で、涙腺がゆるい私はもらい泣きする場面もいくつか。簡単にはいえませんが、氣魄のこもった「一生懸命」は人の心に残ったことでしょう。

聞こえてくるのは「じゃあ、あなたはどうかなの?」もう年だから...は、葛西紀明選手四十一歳が。時間がないから...は、育児と競技を両立し、「諦めない姿」を見せた三星マナミ選手のほか、多くの選手が生きざまをおしえてくれました。自分のおかれています。自分のような生き方をしなければいけないかを、考えさせられます。

(徹)

